

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2275500532		
法人名	アサヒサンクリーン株式会社		
事業所名	アサヒサンクリーン グループホーム吉田		
所在地	静岡県榛原郡吉田町神戸3333-1		
自己評価作成日	平成30年8月9日	評価結果市町村受理日	平成30年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2275500532-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2275500532-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年9月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「お客様は毎日が主役、いつでも主役」を施設理念とし、毎日唱和をしています。日々の生活で「主役」になれる場面作りのお手伝いが出来ればという思いをもって業務に当たっています。10年以上の勤務者も半数居て、お客様、ご家族とも「馴染み」の関係作りが出来ていると思います。毎月参加するいきいきサロンでも「馴染み」の関係になってきており、サロンの参加者から「今日も来てくれてありがとう。」と気さくに声をかけていただけるようになりました。また、各小学校での「認知症サポーター養成講座」にて劇団アサヒの公演もさせていただき、地域の小学生へ認知症の方への対応を劇を通して分かりやすく説明をしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

茶畑のうねと同じ爽やかな緑色の屋根が横長の平屋を覆い周囲の自然に溶け込んでいて、移設新築ながら(吉田事業所が発足して)17年目の趣きが漂う建物です。食欲が落ちた人に「何食べたい?」と尋ねると「焼き鳥が食べたい」というので、「夢を叶えようプロジェクト(事業所考案企画)」に副って「じゃあ居酒屋に行こう〜」と、他の利用者も便乗して満喫した日もあって、一人ひとりの小さな想いを実現させているほか、「アサヒ劇団」や「NHKのど自慢もどき」など遊び心満載の取組みがあります。地域の祭典である「ふれあい広場」では利用者、職員で踊りを披露する予定で、今から衣装選びも楽しみです。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お客様は毎日が主役、いつでも主役」を施設理念として毎朝唱和をしています。日々の生活の中で「主役」となれる場面作りが出来るよう、関りを大切にしています。	新築移転を機会に見直した事業所理念は、法人理念とともに毎朝唱和しています。利用者には「役に立った」感を抱いてもらえるよう、野菜の葉をちぎるような小さなこともお願いして「お客様は毎日が主役～」の言葉を体現しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	町内4地区へのいきいきサロンへ毎月参加したり、文化展や吉田町主催の福祉祭りへの参加をして、地域とのつながりを大切にしています。	町内の3つの小学校を廻り、認知症サポーター養成講座の中で認知症の理解を寸劇で深めてもらうという事業に取組み、3年目となります。、「劇団アサヒ」の公演は笑いを誘う工夫もあって、小学生にも好評で、御礼のお便りも届いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	劇団アサヒも好評になり、今は吉田地域と島田地域で団員を分けて活動している。地域のサロンでの公演はもちろん、小学校での認知症サポーター養成講座にて公演をし、認知症の方への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での様子や催し物を実績とともに説明しています。民生委員も町内の「高齢者部門」の中で持ち回りで参加して下さるようになり、神戸以外の地域の民生委員にも知って頂けるようになりました。	以前担当だった民生委員の口添えから、町内の民生委員が持ち回りで出席するに至り、全域の情報が集まっています。認知症サポーター養成講座、見守りセンサーについての講話等、出席者の学びとなる内容と成っています。	現在は福祉、介護保険の仕組み、病気の症状等の理解が深まっていて充実していますが、今後は事業所の取組みについて知ってもらえる割合が増えていくと、なお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故や救急搬送等の報告、運営推進会議への参加等普段より協力関係を築けるよう関りを持つようにしています。	町からは介護相談員が毎月来所しています。事業所でも寸劇で地域の認知症理解を進め、「またお願い」というリクエストに応じて「認定調査」や「訪問販売詐欺」等、地域住民の役に立つ内容を次々と提供しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	H29年に身体拘束廃止委員会を立ち上げ、吉田事業所で取り組みを行っています。また、年に1度会社内での研修を行い、身体拘束についての勉強を行っています。3ヶ月に1度、グループホーム内カンファレンスにて身体拘束廃止に向けての話し合いも行っています。	「身体的拘束等の適正化のための検討委員会」は吉田事業所としても取組んでいて、事業所独自のものと2種類が平行しておこなわれ、学びを高めています。本年度の法改正に基づき、年4回の会議運営を定め、既に2回を終えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、高齢者虐待について社内での研修会に参加したり、カンファレンスにて話す機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所全体として権利擁護に関して学ぶ機会がなく、活用できるよう支援するまでに至っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約は契約書、重要事項説明書にて介護保険法による料金改定の時には一部変更同意書を用いて、利用者・ご家族へ説明し十分納得していただいた上で署名、捺印いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月末所する相談員からの評価や毎月ご家族に来て頂き、記録の確認のうえ、署名捺印時にご家族から意見等の聞き取りを行って、ミーティング等で職員に周知している。	運営推進会議は代表家族にお願いし、年1回の家族会にも3分の2程度の出席があり、ゲームやどら焼き作りを一緒におこない、交流を図っています。パイタルをはじめ記録を毎月説明し、確認印までもらって情報共有に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや朝礼時、必要に応じ個別で職員から意見や提案を出してもらい、申し送りノートに記入することで、職員全員に周知して即実践、即反映できるようにしている。	長く働く人の声を中心とならないよう、管理者が経験の浅い人の意見も汲むようにしており、概ね皆意見を言っています。実際、業務の円滑な推進を考慮して、休憩のとり方を変えた例もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与等においては本社が管理しているため、事業所での改善が出来ない。職員の都合を優先できるよう、生活スタイルにあったシフトを作るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社として新人研修や社内研修の充実を図るとともに、個々のレベルアップに繋げている。外部研修にも積極的に参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回訪問時や契約時にご本人の困っている事や不安な事をしっかり傾聴した上でグループホーム内での生活に対して分かりやすく説明し、極力不安なく生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回訪問時や契約時にご家族の気持ちを傾聴し、グループホームとしての役割や特徴、ご家族の協力の必要性を説明し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、管理者、ケアマネジャー、介護職員が参加しての担当者会議にて必要なサービスの話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でお客様一人一人がどこかで「主役」になれる時間を作るよう、お客様の出来る事を見極めて「脇役」として職員がサポートできるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に1回の家族会の実施やご家族の面会時、電話連絡等の時に話やすい雰囲気作りを行い、ご本人に関する普段の様子を分かりやすく、丁寧に伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内のいきいきサロンへの参加で馴染みの方と出会ったり、行き着けの美容院へ行って昔話に花が咲いたりご本人にとって、今までの関係が途切れないよう配慮している。	併設事業所に遊びに寄ったり、毎月地域4地区(箇所)のサロンにもでかけ、顔なじみを日々作っています。アサヒギャラリー(写真展示)も頻回に貼り替え、家族の中には「こんな顔するのぉ」と驚きつつ壁に沿ってフロアを1周する人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビングで過ごす中で、それぞれが孤立して過ごす事がないよう、職員が関わってお客様同士が会話したり、関れるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設入所や入院等になると関係が途切れてしまう。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	『あなたの夢叶えます』プロジェクトを発足し、お客様の希望、要望を出来る限り叶えられるよう職員一丸となって頑張っている。	食欲が落ちた人に「何食べたい？」と尋ねると「焼き鳥が食べたい」というので、「夢を叶えようプロジェクト(事業所考案企画)」に乗じて「じゃあ居酒屋に行こう～」と満喫した日もあって、一人ひとりの小さな想いを確実に実現させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には必ず生活歴を聞いて、馴染みの暮らしや趣味など、施設生活にも役立てられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースで生活できるよう、日々の体調観察をしっかり行い、無理なく1日を楽しく過ごして頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングとケアプランを合わせた書式に変更し、毎月のミーティングで職員同士がしっかりと話し合えるようにしている。また、何か有れば即ご家族とも相談しケアプランの変更に繋げている。	リスク管理表と称するオリジナルシートを備えています。介護計画を集約して1枚に収めたもので、「その人」と「その人の経過変化」が一目で判るものとして、実効性を高めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアにて即変更や実践、結果等は日勤帯申し送り表に記入したり、毎月のミーティングで情報共有してケアプランに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病院受診が必要になった場合に、重篤化を防ぐためにもご家族による受診が困難な場合には施設側で柔軟に対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お客様が「馴れ親しんだ暮らし」を継続させるためにも、各地区のサロンに参加するのは「馴染み」の方々に会って昔を思い出すことにつながるため、力を入れて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の体調観察をしっかり行い、小さな変化を見逃さないようにしている。早期発見、早期受診を心がけ、必要があれば管理者が受診に同席し、施設内の様子を主治医に伝え、的確な指示を頂く。	在宅からのかかりつけ医を家族の通院介助を以て全員が継続し、受診後は家族から口頭で聞き取り、経過記録に残しています。投薬ミスを撲滅するために「薬ハット表」で「WWチェック」をおこない、丁寧に確認する職員の姿も視認しました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師が常駐していない為、必要時は同敷地内にあるデイサービスや小規模多機能の看護師と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーとの連携を密に行い、お客様の状態把握や情報共有、早期退院に向けての話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の不安要素でもあるため、食事が摂れなくなってきたり、状態悪化になってくる中でご家族や主治医とも話す機会を作りながら、グループホームとして出来るところまでを支援している。	職員教育も追いつかず、看護師配置も厳しいことなどを理由に、医療処置が必要となったり重度化の場合は移設となることを、契約時に家族には理解してもらっています。看取りはおこなわないものの評判は良好で、他サービスを利用しながら空室を待つ人が20名ほどいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にも実際を想定しての救命救急講習を実施している。また、救命救急普及員の講習職員を増やしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPの作成、年2回の消防訓練を行っている。特に施設系では実際に駐車場までの避難を行っている。	山の上にあることから津波、水害は心配がなく、「避難する」より「避難者を受け入れる」ことが想定されています。訓練は、吉田事業所にある3つの施設合同で年2回おこない、避難経路の掲示もあります。	新しく建てた施設なこともあって、煙の経路や地形的な避難のコツなど消防署の立ち合いで具体的な助言を得ることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様1人ひとりの人格や特徴を把握したうえで、日々の声かけを行っている。	ずっと独り言を言う人、無表情で気持ちが掴みにくい人と様々な症状の利用者ですが、職員は特徴を把握しているらしく、総じて丁寧です。声が出てにくい人にはレクの一環でメモ用紙をつくり、筆談で皆の中に溶け込んでいることも視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出したい先を聞いたり、食べたい物を聞いたりして出来る限り希望に添えるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	直ぐに実行できることと、出来ないことがあるので、日時をずらして対応するなど、出来る限り希望に添えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をされる方の化粧品購入や、いきつけの美容院へ行く方への支援、外出時に気に入っている衣類の選定の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が主に行い、野菜の皮をむいたり、ちぎったり、盛り付けたり等をお手伝いしていただく。時にはお客様に味見を行ってもらい、「先輩主婦」としての厳しいご意見も頂いている。	季節のものを取り入れ、新鮮な食材を職員の手作りで提供していて、利用者も「いつも美味しいよ」と教えていただきました。「白いご飯がいい」という人にはパンの日にもご飯を用意しており、ノンアルコールで晩酌をする利用者もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録に付けて管理している。栄養士はいないが、野菜を多くして便秘予防をおこなったり、洋食よりは和食にして馴染みのあるメニューに近づけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを行うように努めている。眠前の口腔ケアでは残渣物が残っている方が多いので、職員が介助して取り除くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は基本的にトイレでの排泄を行っている。夜間はオムツ対応ではなく、ポータブルトイレの使用にて職員がその都度介助を行っている。	リハパンまたは布パンとパッド対応が大半ですが、立位が保てなくなった1名はオムツとなりベッド対応です。夜間対応として居室にはPTイレを置いています。寒天やさつまいを食事に多様して便秘対策にも余念がありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を表で記録し、必要に応じ、下剤や座薬を使用している。最近ではさつまいもや寒天ご飯を食事に取り入れているため、便秘の方が減ってきている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴を実施。当日に入浴する人数が少ない時には入浴が好きな方に入っていただくよう臨機応変に対応している。	隔日入浴で清潔に努めてはいますが、「毎日入りたい」希望には100%応えることは難しい状況にあります。それでも、その日に入浴する人数が少ないときには続けて入ってもらう等配慮もあり、柚子湯の時節風呂も実施しています。	「毎日入りたい」人には足浴が付加されると、良いと思います。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の方へはリビングにて、話しを聞くようにしたり、一緒にお茶を飲んだりして一緒に過ごすようにしている。体調に応じ、日中も居室にて静養していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬撲滅をモットーに「薬ハット表」にて誤薬を予防している。1回分の薬を出すときにも処方箋を見て出すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本的に外出を多く取り入れられるようにしている。外へ出ると食欲も湧き、表情もいきいきとしてくる。リビングのカレンダーにて1ヶ月の行事が把握できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	恒例の回転寿司ツアーや季節に応じて桜やバラを見に行くようにしている。	足腰が丈夫な人は周辺散策をよくしており、事業所でも初詣、花見、スイーツ、回転寿司等へ外出計画書を作成して出掛けています。割烹、カフェなどのグルメフェスティバルや、NHKのど自慢のパロディと、室内で外出したかのように楽しむイベントも多彩です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額を自己管理の下で持っている方は近所のスーパーへ一緒に行き、買いたいものを買いに週に数回出かけている。駄菓子屋アサヒでは模擬銭を作り、駄菓子を買う時にお金の勘定ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話をかける方はいないため、ご本人の意向を代筆したり、職員が電話をかけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下等施設感を出さないようにしている。職員の手作りの飾りや季節が分かるクラフト(お客様と一緒に作成)を各居室前に飾る等の工夫をしている。	数ヶ月に1度駄菓子屋をイベントとして開催していることから、企業の宣伝プレートや水風船等昭和が滲む掲示やインテリアに囲まれたリビングです。立ち働く職員の感覚で少し室温が低かったことは、介護相談員に指摘を受け速やかに改善しています。	脱衣所のスペースがなく快適とは言い難いため、棚の上に伸ばす等是正し、足下に置いてあるものが収納できることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごすのが好きな方や、気の合った方の隣で過ごす方など三者三様の過ごし方ができるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にはご自宅でご本人が使用していた布団、枕、食器類を持参していただいている。馴染みのものを施設でも使用することで、不安の軽減につながっている。	居室入口には写真も挟み込んだ和調の手作り表札がかかり、移設前より少し広くなってゆったりしています。家族写真等の小物の他、真っ赤な冷蔵庫や立派な籐家具を置く居室もあり、持ち物からは個別性が見られ安堵を覚えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名札は馴染みのある花の名前にし、各個人の写真を貼っているのも、どこが自分の居室が分かりやすくなっている。		